

「初任者の抱えている悩み」への助言

若い先生方が学校にいます。活気があり、年齢が生徒と近いとため、生徒たちにとって、教育にとってよい成果が出るだろう。近年、大学卒業してすぐに教壇に立つ先生が多くなった。

その先生方の疑問に対する私からのミニアドバイスを書きました。

①とにかく授業の作り方を学びたい

基本の「かたち」はある。しかし、内容・教材・生徒により変化はある。

どんな力（技能？表現？理解？興味？）を育成する時間か、そのためにどこにどれだけの時間が必要かを見極めよう。

全ての時間に話し合いなどの言語活動が必要とは限らない。

②指導教員とゆっくり話ができない

あなたも忙しい、指導者も忙しい・・・。

かつて、電子メールができて時間をこえた会話ができて感激した。

メディアの利用により、メール会話、日程調整による会話の設定など可能性が出る。

③実験授業の方法、実験（準備、片付け、操作の指示）、実験の不慣れ

従来から、理科教員は「マメ」な方が多い。修理や整理、行事の運営、生徒を動かす・・・などが上手。これは、観察実験という生徒を動かすことが日常的にできているからだ。

覚えておくといけないのは、実験の進め方には2通りの考え方がある。

演繹的手法…理論を学んでから実験で確かめる。

帰納的手法…実験から理論を見いだす。

生徒につけたい力や教材や学習内容によってどちらが有効か考えることが大切である。

毎回、イメージし、実践し、改善して、繰り返して指導の上手な先生になりなさい。でも、すぐにはなれない。

④教材の理解不足

勉強しなさい。本や新聞からさまざまな情報を得よ。教えを待っていても得られません。本を読む時間はつくるものです。それが社会人だと思う。

⑤ノート指導

すばらしいノートの例を見習うのも大切です。自分の板書を生徒は写す。

そのノートを見て、生徒はテスト勉強がはかどるか？

当事者意識になって研究しましょう。

⑥ ICTの利用

無理して使うものではない。ただ、有効に活用すればよい。現在、タブレット等の情報収集・加工・発信が得意なメディア、書画カメラ等による提示が得意なものがあります。適切に活用しましょう。

⑦プリントの作り方

プリントに性能があると思う。情報提示、データや考えの整理、記録、生徒への指示などがある。あまり情報をのせすぎないこと。あくまでも自主的に学べる生徒を育成するので、プリントに頼りすぎるのもいかなものか・・・。

⑧理科ノートの活用

業者がつくったノートは、見開き左には印刷物、右はノートが一般的か。左の印刷物もよく活用した。どうしても情報を付け加える必要がある時は、小さなプリント（A6版、B6版）を配付した。保護者からお金による購入なので、有効に活用しよう。

⑨話し合いの場

①、③と関わりを持つ。毎時間必要ではない。

実験前の予想や計画に重きをおくのか、実験後の考察やまとめに重きをおくのかによって自然と話し合いの場は決まるだろう。

できれば、年に1～2度、中学時代に複数回、アクティブラーニングのような自主的で能動的な活動があるといいですね。

⑩専門的な相談を気軽に聞ける人がいない

教育センターを活用ください。コンサルティングの制度があります。土日でも対応できる場合があります。もう社会人です。無かったり、いなかったら探したり見付けたら作戦を考えよう！

⑪評価

すばらしい悩みです。評価が難しいと思えば見込みがあります。指導計画にある目標に対する達成を見るものです。十分達成できていなければ補う必要があるし、指導方法を改善する必要があるかもしれない。覚えておいてほしいことは、指導要録にのせる評定とは性質がちがうことです。観点（目標）に基づき、定期テストや日常の授業による測定、作品、授業態度などの測定など、複数の多様な情報を集め、生徒に返してあげましょう。

ぜひ、まわりの先輩に教えてもらったり、⑩にあるように教育センターを活用してください。